



# 造形秋田

NO.57 (令和2年度)

2021.4



秋田県教育研究会造形部会  
秋田県造形教育研究会

## 日常的な「人・もの・こと」との関わりの中にあるよさや美しさを

秋田県造形教育研究会  
会長 木村 伸

今年度の「造形秋田」が発刊されました。まずもって、編集や執筆にご協力いただいた皆様に心から感謝申し上げます。県全体としての交流が思うようにできない今年度でしたので、各地区造形研の取組や様子について唯一分かる情報として、ご活用いただければ幸いです。

今年度は、コロナ禍にあって、いろいろな美術展やコンクールなどもほぼ例外なく中止という状況となりました。そのような中で、秋田県児童生徒美術展は、新年の展示こそ中止としましたが、各地区での応募・審査という形に代替して行うことができたことは、県内各学校はもちろん、図工・美術が好きな子どもたちにとっても励みになったことと自負しております。安全安心の対策を工夫されながら、応募・審査をしていただきました各地区会員の皆様に、改めまして感謝申し上げます。

さて、この秋田県児童生徒美術展を含め、今までいろいろな絵画展や作品展の審査をする機会がありましたが、ここ数年の出品作品の題材には、技法を中心とした表現のものや、抽象的な表現のものが増えてきていると感じます。小学校では、教育課程の関係から、図画工作の時間が少なくなり、教科書に提示されている題材の内容も以前と様変わりしてきています。図画工作の時間には当然限りがありますが、多様な発想や表現方法を広げる題材に加えて、今までと同様に、身近な人やものやことの中にある何気ない美しさや見つけたよさなどを、「じっくりと観て描く」という題材への取組も忘れないでほしいと思います。「ありふれた日常から美しさを見つけよう」と教師が適切に題材を設定し、そこで子どもたちは主体的に主題を決め、造形的な視点で日常や世界を見直す。これこそが、新学習指導要領のポイント「造形的な見方・考え方を働かせる」であり、子どもにおいて実現していることが重要なのです。

図工・美術の教育課程教科調査官を歴任され、現在、環太平洋大学副学長をされている村上尚徳氏が、ある作品展の「総評」で書かれていた内容に、その共通性を感じましたので一部紹介いたします。……心に響く作品とは、表したいことが明確で、それを工夫しながら素直に表した作品です。今回、賞に入った作品を見ると、自分が表したいものや心に残ったものを、大きく描いたりたくさん描いたりした作品や、構図を工夫して印象が残るように独自の視点で表現した作品が多くありました。どれも自分の着眼点でとらえ、自分の表現方法で一生懸命描いている姿が伝わって来る作品でした。……(中略)……近年、子どもたちの自然体験や家族、地域での触れ合いの機会などが減少していると言われていきます。そうした中で、それらをテーマに絵を描くことは、体験したことをじっくりと振り返る時間になり、自然のよさや美しさ、不思議さ、家族や友達、地域の方との触れ合いや心の温かさなどを改めて実感する機会にもなります。そのような温かさや楽しさが伝わってくる作品に出会うことが、この作品展の審査の楽しみでもあります。……

昨年度本誌の巻頭言にも書かせていただきましたが、あらためて、各学校においては「子どもに描かせる」ことから脱却し、「子どもが描きたくなる」ような日常的な関わりに気付かせたり、そういう機会を創ってあげたりすることこそ大切であり、お願いしたいことです。

コロナ禍であろうとなかろうと、ふるさと秋田の日常的な「人・もの・こと」との関わりを見つめ直していくことで、きっと「あきたの形や色彩」が鮮明に見えてくるに違いないのですから…。

## 目次

---

### 巻頭言

日常的な「人・もの・こと」との関わりの中にあるよさや美しさを

各都市造形教育研究会の活動報告・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

第61回 秋田県児童生徒美術展・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 11

第61回 秋田県児童生徒美術展 話題作一覧・・・・・・・・・・・・ 12

- ・
- ・
- ・
- ・
- ・
- ・
- ・
- ・
- ・

# 各都市造形教育研究会の活動報告

## 組織

会長	津幡 治久	(平元小学校)	理事	橋本 忍	(尾去沢小学校)
副会長	関 清志	(十和田中学校)	理事	内川 由美子	(十和田小学校)
事業部	川口 好陽子	(花輪北小学校)	理事	木村 史子	(花輪小学校)
研究部	澁谷 千里	(花輪中学校)			
会計	海沼 智恵子	(花輪小学校)			

## 主な事業

令和2年度総会  
(新型コロナウイルス感染症対策  
のため書面決議のみ/4月)

県児童生徒美術展鹿角地区審査会  
鹿角造形教育研究会 研修会  
(文化の杜交流館コモッセ/12月9日)

鹿角小・中・高合同美術展  
(コモッセ/1月21日~1月27日)  
作品を見合う会 (同 /1月27日)

## 研究会(事業)の記録

## 鹿角造形教育研究会 研修会(12/9)

今年度は新型コロナウイルス感染症対策のため、全県での研修の機会が少なかったが、県児童生徒美術展鹿角地区審査会に合わせて実技研修会を実施した。

本地区研究会副会長の関清志先生を講師に、「洋の東西と美意識」と題して、平面構成の演習を行った。演習を通しての考察として「中学校で初めて抽象的な表現に取り組むが、どのような構成に美(心地よさ)を感じるのかといった根底は小学校の造形遊びの中にも見られる」というお話があり、小・中の接続・連携においても示唆に富む内容だった。

## 県児童生徒美術展鹿角地区審査会(12/9)

今年度は、小・中合わせて90点の作品が出品され、そのうち23点の作品が入賞し、5点の作品が地区審査にて話題作に選ばれた。

鹿角小・中・高合同美術展(1/21~1/27)  
作品を見合う会(1/27)

今年度も小・中・高合同美術展を開催した。県児童生徒美術展に出品された小・中学生の作品90点のほかに、高校生の作品も展示され、多くの来場者に鑑賞していただくことができた。また最終日には県造形教育研究会会長の木村伸先生をお迎えして、作品を見合う会を開き、鹿角の課題や今後の方向性などについて研修を行った。

小学校の低学年で体験したさまざまな技法を、中学年、高学年で自分の思いを表現する手段として使えるような学年の接続を意識した指導の大切さや「描きたい」と思わせるための教師の導入段階での働きかけ、題材との出会わせ方の工夫の重要性について再確認することができた。



実技研修会の様子



美術展のポスター



話題作(小1)



入賞作品(小5)

## 組織

会長	嘉藤 貴子	(合川中学校)			
副会長	藤嶋 幹子	(上小阿仁小学校)	三澤 正敏	(成章小学校)	
	渡辺 俊春	(南小学校)			
事務局	佐々木 亜希子	(田代中学校)	沼田 桃子	(森吉中学校)	
研究部	工藤 明美	(合川中学校)			
会計	佐々木 由美	(北陽中学校)	山崎 真紀子	(東中学校)	

## 主な事業

春の総会 (4 / 15)

→メール型に変更

素描集「北の造形」第53集発刊・配付  
秋田県児童生徒美術展賞状 配付  
(1 / 13) 会場：有浦小学校

秋田県児童生徒美術展地区審査会

素描集「北の造形」第53集審査会

第43回絵を見て語る会

臨時総会 (11 / 20)

会場：田代公民館

最終理事会 (1 / 15)

→メール型に変更

## 研究会の記録

今年は予定通りとはいかなかったが、コロナ禍であっても臨機応変に事業を行うことができたと思う。秋田県児童生徒美術展地区審査会は、例年と同じような期日・会場で、感染症予防対策をしながらの開催となった。展示作業がない分時間にゆとりが生まれたため、例年は1月に行っている「絵を見て語る会」(研修会)を同時開催とした。審査をしながら、一つ一つの作品の材料や用具の工夫、作者の思いにふれながら、指導方法についての研修を行った。児童生徒に必要な感をもたせた題材づくりや、一人一人に主題をもたせるための指導の工夫の大切さを共通理解した。小学校では今年度から、中学校では来年度から目標が3本柱に整理され、それにもとない評価の観点も整理されることを受けて、評価方法についての話し合いをもつことができた。

同日に、素描集「北の造形」の審査会を行った。幼・小・中と発達段階が上がるにつれて、より対象の形や色、質感を捉える力が高まってくる。素描とは、単に立体の物を平面に描き表すのではなく、観察者が感動したことを紙の上に表出する過程である。今後も子どもたちが、身の回りの物や人の表情、景色など、「美しい」「不思議だ」「描きたい」と感じた感動を、素直に表出できる心と技術を育てていきたい。

しかしながら、53年の歴史をもつ素描集「北の造形」は今年度を最終刊とした。授業時数削減のため作品制作の時間確保が難しい、学習指導要領の内容とは一致しない、造形会員数の減少により運営の負担が大きい、などの理由からである。長年続いた展覧会を廃止することは苦渋の決断であったが、時代に合わせて事業を見直したり、精選したりしたりすることは、今後も様々な場面が必要になってくると思う。全会員で知恵を出し合いながら、児童生徒の感性や能力を育てていくために効果的で持続可能な造形教育の在り方を模索していきたい。



絵を見て語る会発表場面



絵を見て語る会発表場面

## 組織

会長	矢田部 瑞穂	(浅内小学校)		
副会長	明石 まき子	(第五小学校)	長浜 笑子	(東雲中学校)
会計監査	芹田 亨	(山本中学校)	越前芳広	(第四小学校)
事務局	岩谷 修一	(八竜中学校)		
理事	伊藤 康子	(湖北小学校)	越後谷 知子	(峰浜小学校)
	鈴木 悦子	(藤里小学校)	渡部悦子	(能代第一中学校)
研修班	田中 絵里奈	(能代第二中学校)	芹田 亨	(山本中学校)
	越前 芳広	(第四小学校)	小林 翔子	(能代南中学校)
	小山 由美子	(ニツ井小学校)		

## 主な事業

### 夏季研修会

「令和3年度 造形教育秋田県大会北ブロック大会に向けて研修を深める」7/31

### 造形部会研修会

「令和3年度 造形教育秋田県大会北ブロック大会に向けて共通理解を図る」10/15

### 授業研究会

琴丘小学校  
「つづきえ どんどん」(2年生) 6/23  
金岡小学校

「わたしのお気に入りの場所」(6年生) 9/30

秋田県児童生徒美術展審査会 12/10

### 企業との連携

全国児童生徒木工工作コンクールへの出品

## 研究会の記録

### 夏季研修会・造形部会研修会

7月31日に、浅内小学校において、「令和3年度 造形教育秋田県大会北ブロック大会に向けて研修を深める」というテーマで、県総合教育センター指導主事の田森舞先生を講師に研修会を実施した。

内容は「これからの造形教育の在り方について」、「授業のアイデアについて」、「指導案の書き方について」という3点についてであり、豊富な資料と専門的な立場からの詳しいお話を聞くことができ、来年度の県大会に向けて研修を深めることができた。

この研修会の内容を受けて、10月15日に、浅内小学校で研修会が行われた。「大会テーマ」、「設定にあたって」、「研究の視点」、「研究の重点」等についての共通理解を図り、「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の3つの柱を中心に据えた実践を進めていくことと指導案の形式を確認した。また、研究への理解を深めるために、それぞれの部員が実践したことを、実践例としてまとめていくことも確認した。併せて、大会当日の日程等も話し合った。次年度開催に向けて、研修を深めるとともに会員の意識を高める良い機会となった。

### 授業研究会

6月23日に琴丘小・大原修教諭が「つづきえどんどん」(2年生)の授業を、9月30日に金岡小・松渕将吾教諭が「わたしのお気に入りの場所」の授業を提示した。

琴丘小の実践は、「紙を貼る位置によってお話に変化をもたせたり、お話に合った絵を描いたりして、自分なりに試しながら工夫して表す。」ことをねらいにした授業であった。一人一人の子どもが自分らしさを発揮し、意欲的に作品づくりに取り組む姿が印象的であった。



金岡小の実践は、「お気に入りの場所にいる自分や友だちを、思いをのせて表現する。」ことをねらいに、それぞれの児童の「色」「形」「イメージ」を大事にした授業で、既習の技法を掲示しいつでも使えるようになっていたり、自分のイメージを表現できる場が十分確保されたものであった。作品づくりに熱心に取り組む姿はもちろん、鑑賞の場でそれぞれの良いところを認め合う姿が印象的であった。

## 組織

会長	小玉 智	(美里小学校)			
副会長	嶋宮 弘子	(大豊小学校)	太田 三千代	(北陽小学校)	
運営委員	菅原 恵	(五城目小学校)	上田 環	(五城目小学校)	
	築瀬 智美	(井川義務教育学校)	近江 和佳子	(天王南中学校)	
	伊藤 晃	(美里小学校)	都留 賀津人	(男鹿東中学校)	
事務局	中川 努	(天王中学校)			

## 主な事業

総会	4/14 (火) 中止	運営委員会	5/25 (月)
夏休み造形教室	8月 中止	教科等研究会	11/11 (水)
県児童生徒美術展地区審査 (話題作の選出)			12/11 (金)

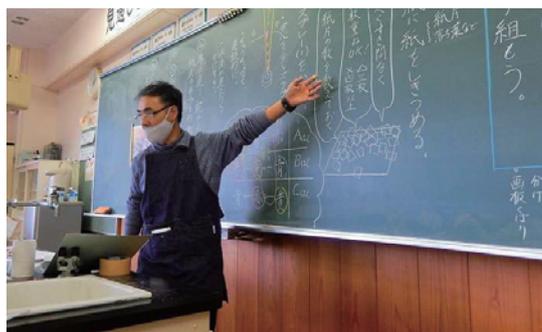
## 研究会の記録

(1)研究主題 よろこび・わくわく新たな発見 ～キラリ感じてつなげる、広げる～

### (2)活動の概要

#### ①教科等研究会

- ◆会場 男鹿市立美里小学校
- ◆時間 14:05～16:30
- ◆内容 模擬授業と実技研修
- ◆講師 伊藤 晃 先生 (美里小)
- ◆助言 小玉 智 校長先生 (美里小)
- ◆所感 伊藤先生と参加者による題材名「三原色を用いたスプレー画に取り組もう」の模擬授業を行い、赤、青、黄のスプレーを使って模様を作り、それを生かして自由に発想する題材に取り組んだ。参加者は、スプレーする力加減や角度などを試行錯誤したり、互いの作品を見合ったりして、本題材の可能性を探りながら研修を深めることができた。



#### ②県児童生徒美術展地区審査

- ◆会場 潟上市立天王中学校
- ◆時間 15:30～16:40
- ◆所感 一度中止にした地区審査を、再度立ち上げるのに予定外の労力を要したが、各学校も先生達も事情は十分に承知してくれて、苦情なども一切無く、協力が得られてよかった。本来、地区審査は「子ども絵の見方研修」の場でもあるが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、話題作の審査を会長、副会長、運営委員、事務局のみで行ったので、造形部員全員の研修とはならず残念であった。

## 組織

会長	加賀谷 政広 (岩見三内小・中学校)		
副会長	鎌田 悟 (秋田北中学校)	大野 一紀 (下北手小学校)	
	松田 清悦 (秋田南中学校)		
事務局	渡部 英明 (勝平小学校)	菊地 有希子 (日新小学校)	
	中尾 裕子 (御所野学院中学校)		
幹事	小林 さおり (秋田南中)	佐藤 水季 (雄和中学校)	
会計	佐藤 廣子 (勝平中中学校)		

## 主な事業

大森山動物園  
第43回親と子のふれあい写生大会  
(大森山動物園と共催：審査日8月22日)

クロッキー展：市内各小学校  
(審査・展示：各小学校で)

秋田県児童生徒美術展  
秋田市作品募集・審査・展示  
(審査11月27日～12月9日)  
(展示1月1日～1月31日)

## 研究会の記録

## 親と子のふれあい写生大会

毎年7月下旬に大森山動物園との共催で行われている大会である。今年度は、新型コロナウイルス感染症拡大により開催が危ぶまれる中、5月に行われた実行委員会では中止も含めて検討されたが、毎年楽しみにしている子どもたちが大勢いることから、実施方法を工夫して開催することになった。原則園内では、簡単なスケッチや写真・動画撮影のみとし、他に動物園の公式 SNSなどを参考に自宅で制作してもらうことにした。また、立体の部は中止した。作品は8月1日～9日までの9日間に動物園事務所へ直接持参してもらい、8月22日(土)に担当の造形会員が園内にて審査を行った。例年よりは少ないものの400点以上の応募があり、審査は難航した。いつもは会員同士で話し合いながら審査していくのであるが、このたびは小松園長にも参加していただいたことで、私たちの知らない動物の行動や特徴などを知り得る機会にもなり、作品を観る目を養う有意義な研修の場となった。

## 秋田県児童生徒美術展(秋田市)

例年秋田市の審査は、全造形会員が会場校に集まり、学団ごとの担当を決め審査を実施していた。しかし、今年度は一堂に会することが困難であることから、各校で作品画像を送信し、会員各自が画像を観ながら審査をした。

具体的には、募集の際に写真データによる審査であることを明記した上で作品募集を図り、各校で応募作品を写真撮影してデータ化し、事務局が準備したパワーポイントソフトに添付してもらって全ての出品画像データを集約した。審査の実際は、事務局で全会員を校種や学団ごとに割り振り、各自がそれぞれのパソコンで集約された画像データを観ながら、予め定めた審査基準に照らしてよいものを選び、その集計結果で賞を決定した。審査後の作品展示は、御所野イオンモール秋田ショッピングセンターに協力を依頼し、入賞作品を3つのグループに分けて、1月1日～31日の期間、セントラルコートの大規模ビジョンヘタイムテーブルに沿って映し出してもらった【写真】。大画面で観る作品はどれも迫力があり、自分の作品の順番を待っている親子連れの姿も見られ、映し出された作品を満足げに観ている様子が印象的であった。



## 組織

会長	木谷 玲子	(新山小学校)		
副会長	田村 稔	(岩谷小学校)	菊地 邦彦	(新山小学校)
事務局	山下 奈知	(本荘東中学校)		
研究部長	関口 琢也	(金浦小学校)		
会計	須田 秀二	(仁賀保中学校)		

## 主な事業

令和2年度造形部総会（紙面）4/30

造形部研修会

12/4

本荘由利児童生徒美術展 11/27～11/30

造形部研修会

12/7

## 研究会の記録

### 1. はじめに

各校の教科研究や地区の研究会等で造形部員それぞれが研鑽を積み、指導法の研究や児童生徒の作品がどうあるべきかを考察すること、また、研究部会・児童生徒美術展・県児童生徒美術展 作品審査への参加など、様々な形で積極的に研修することを当会の具体的な目標とした。

特に、児童生徒美術展は各校の造形活動の取り組みを紹介し合う機会であり、より幅の広い意味での情報交換の場となっている。奨励作品の審査・選出を通して作品の見方や造形活動の在り方について協議する活動の意義は大きい。

また、新学習指導要領全面実施に向けて、今年度は研究主題を新たに設定し、来年度以降は美術展の在り方について刷新していこうと準備している。

### 2. 各事業の成果

#### (1) 本荘由利児童生徒美術展（11月27日～11月30日）

由利本荘市文化交流館「カダーレ」で開催した。テーマである「描くこと・つくることが大好き」を反映した個性豊かな作品が多く見られた。昨年同様、立体作品の充実には目を見張るものがあった。

出品作品の中から造形部が目指す作品を「奨励賞」として選出した。各小中学校の教職員及び、造形部員の熱心な取り組みと各校の協力で、運営面・作品の内容ともにより充実した美術展となった。

カダーレを会場として実施するのは9回目ということで、3日間で1637名の来場があり、多くの方々に見ていただけた。

来年度は本荘由利児童生徒美術展が新学習指導要領の趣旨に則った研修の場となるように協議を重ねており、具体的な計画を各校に発信していく必要がある。

#### (2) 造形部研修会(12月4日)

由利本荘市市民交流学習センター多目的ホールを会場に、県児童生徒美術展に出品する本荘由利の作品を選出する公開地区審査会として行った。26年度から立体作品の審査も行っているが、各校の出品数を事前に報告してもらうことで審査時間を短縮することができた。また、秋田県児童生徒美術展は審査のみで展示は行われないことから、同日搬入搬出となった。各校の協力により審査後にスムーズに作品返却ができた。

今年度は地区審査の中で、話題作を選出することになり、参加者全員で付箋紙を使って協議ができた。造形部員にとっては、児童生徒の作品の傾向・良さ・課題について話し合う有意義な研修の場となり、今後の授業に役立つ多くの情報を得ることができたはずである。

## 組織

会長	門脇 伸子	(桧木内小学校)		
副会長	菅原 靖	(太田北小学校)	熊谷 留美子	(神代小学校)
監事	三浦 典子	(大曲小学校)	新目 麻衣子	(角館中学校)
研究部	菅原 久実	(美郷中学校)		
幹事	渡邊 真理子	(協和中学校)	三浦 里子	(大曲小学校)
	佐藤 好一	(仙北中学校)	田中 真二郎	(西仙北中学校)
	菅原 久実	(美郷中学校)		

## 主な事業

郡市教育研究会総会  
決算報告と予算決定、研究テーマ、活動計画、  
役員決定 (資料のみ)

令和2年度大曲仙北造形教育研究会秋季研究会  
10月29日 仙北市立生保内小学校  
仙北市立生保内中学校

「指導実践事例集」を編集し、会員配付

第52回大曲仙北児童生徒美術展 (中止)  
第61回秋田県児童生徒美術展：  
地区審査審査 (11月27・30日)

## 研究会の記録

### ・日々の研究として

今年度も「思い豊かで楽しくてたまらない造形教育を求めて」の研究テーマの下、「自分で表したいことを見付け、その思いを表現するための構想を練ることができるようにするための手立て」を研究の重点として、次の3つを仮説として挙げ、会員各自が研究を続けている。

- ①子どもたちに提示する題材名やテーマ題、発問を工夫する。
- ②材料や参考作品の提示を工夫する。
- ③学習シートや図工・美術のノートの工夫や活用を積み重ねる。

### ・関連事業

10月29日に大曲仙北造形教育研究会秋季大会を開催。今年度、当日に児童生徒が登校して研究授業を行うことをせず、各研究団体で研修内容を企画して実施する形となったため、本研究会では、事前に行った小・中の研究授業の様子をビデオで撮影し、当日全員でそれを視聴して協議した。特に「生徒の発想・構想の力を高めるための手立て」について、具体的な実践例とその成果・課題を小中連携の視点を交えて情報交換することができた。午後は、指導主事の高橋聖子先生より「評価」について講話・グループ別に演習を行った。教科書に掲載されている作品を指導要領の解説を見ながら評価することで、新しい評価方法について研修した。また、大会に合わせて会員の実践を「指導実践事例集」として冊子にまとめて配付した。授業研究に役立つ資料集にするべく、今後も回を重ねて編集していきたいものである。

今年度は郡市美術展を中止し、全県美術展出品のための審査を少人数で分散して行った。展覧会は作品を鑑賞して研修する大切な機会であるので、来年度は開催ができるように願う。



## 組織

会長	榊原 若樹	(横手明峰中学校)
副会長	金沢 資子	(増田中学校)
事務局	佐藤 潤	(横手南中学校)
事業部	吉沢 理	(十文字中学校)
研究部	柴田 緩子	(横手北中学校)

## 主な事業

横手市児童生徒美術展・冬季研修会  
(横手駅前交流センターY 2 プラザ)  
令和2年11月20日(金)～24日(月)

秋田県児童生徒美術展地区審査  
(横手駅前交流センターY 2 プラザ)  
令和2年11月24日(月)



審査の様子



市美術展の様子

## 研究会の記録

### ○ 第46回横手市児童生徒美術展

様々な行事や会が縮小する中「横手市児童生徒美術展」の開催も危ぶまれたが、役員会を設け、開催方法やコロナ対策についても話し合った上で、ほぼ例年通りに展覧会を開くことを決めた。子どもたちの活躍の場が少ない年であるからこそ、子どもたちの思いや願いが詰まった作品を発表する場、頑張ったことを認め合える場がほしいと思ってのことだった。出品点数もほぼ例年並みに集まった。会場に足を運ぶ家族は例年よりは少ないものの、作品を写真に取めたり、子どもと話をしたりしながら鑑賞する様子があり、例年通り開催できてよかったと感じた。

### ○ 冬季研修会

今年度は一堂に会して研修会を行う機会をもてなかったため、美術展の搬入・展示作業の後鑑賞会を行い、研修会とした。「小学校低学年」「中学年」「高学年」「中学校」のグループに分かれ、キラリと光る作品を一人1点ずつ選んで講評を添付した。選んだ作品のどんな所がよかったのか、どんな工夫が目立ったのかを記入し、後日作者にメッセージが届くようにした。付箋がはがれやすいことや、選出の観点や意義などが不明瞭であったため、もし次年度も同じような活動をする際は改善が必要である。

### ○ 秋田県児童生徒美術展地区審査

子どもたちにとって、自分の活動が認めてもらえる場が少なかった今年度、展示されることはなくとも、自分の表現に対して賞状をいただけたのはよかったと思う。また、地区の中から話題作を選出するにあたり、審査員で作品のよさや工夫、児童生徒の思いを汲みながら協議し、選出することができて大変有意義な審査であった。

## 組織

会長	加藤 久夫	(東成瀬小学校)	
副会長	三浦 秀巳	(羽後明成小学校)	
事務局	仙道 真理子	(山田中学校)	井上 晴子 (羽後明成小学校)
研究部	長雄 義明	(雄勝中学校)	
幹事	池田 亜紀	(三梨小学校)	
会計	鈴木 陽	(湯沢東小学校)	

## 主な事業

秋田県児童生徒美術展地方展審査  
(湯沢市文化交流センター／11月13日)

会誌「このゆびとまれV o l . 2 0」  
製本・発送 (湯沢北中学校 / 令和3年1月26日)

冬季研修会講師：加藤久夫  
(ロイヤルホテル／令和3年2月下旬)

## 研究会の記録

### ◎秋田県児童生徒美術展湯沢雄勝地方展審査より

総出品数153点 (小学校112点・中学校41点) のうち、47点を本都市の入賞作品として県に推薦した。以下に今年度の審査講評からの特記事項を抜粋する。

#### (低学年)

想像したことやそれに対する思いや願いが作品に込められているものが目を引いた。1年生でのクレヨン中心の画材から、2年生では水彩絵の具の使用へと移行していき、絵の具を効果的に使って表現された作品が見られた。

#### (中学年)

クレヨンで線を描き、にじみやぼかしを使って表現した作品が多く見られた。色の美しさや技法の効果を楽しんでいる様子が伝わる。4年生は木を題材にしたものが多く、構図が工夫されているものが多かった。

#### (高学年)

校舎や風景を題材にした作品では、遠近法を取り入れたり多様な描画材を使用したりして表現していた。混色や重ね塗りを工夫し、表現したい物を追求した作品が多かった。自分の思いを表現するため硬い・柔らかい等の質感を出そうとしている作品も見られ、表現方法の工夫につながっていた。

#### (中学校)

2年生では切り絵と風景画、レタリングと絵画など複合的な題材設定が見受けられ、表現の深まりが感じられた。市を盛り上げるキャラクターや町のよさを表すポスターなど、地域題材が取り入れられた作品もあり、他教科との関わりが作品に見られた。

### ◎冬季研修会

講師：加藤久夫先生〈東成瀬小学校校長〉

演題：「美術教育を語る」※今年度で退職される加藤会長の記念講演を予定している。



# 第 61 回 秋田県児童生徒美術展

話題作一覧

	題名	学校名	氏名	地区
小1	ぶどうのせんすいかん	十和田小学校	わだあいのすけ	鹿角
	つかまえないな	扇田小学校	はたけ山 はな	大館北秋
	ゆめのふねでぼうけん	八郎潟町立八郎潟小学校	渡部ひまり	男鹿潟上南秋
	バスにのってかえるのいけへぼうけんだ	金足西小学校	三浦由奈	秋田
小2	スイカごうでわくわくドライブ	西仙北小学校	すがわら みづき	大曲仙北
	大きな魚とたんけんしたよ	第四小学校	伊藤れい	能代山本
	みんななかよし	石沢小学校	中村絢	本荘由利
小3	あわあわぞうさんと大ぼうけん	十文字第一小学校	小原夕	横手
	ぼくとあそぼう！	三梨小学校	佐藤颯汰	湯沢雄勝
	だれが魚をつかまえられるかな	十和田小学校	成田和香	鹿角
小4	とべ、てんとう虫、ピクニックヘゴー！！	潟上市立天王小学校	佐藤弥来	男鹿潟上南秋
	ねこワンダーランド	雄物川小学校	佐々木花苗	横手
	みんなを元気にする木	山瀬小学校	佐藤海遙	大曲仙北
	歯磨きをしている友達	湖北小学校	三浦蓮来	能代山本
小5	こ空中にうかぶ動物の山	土崎南小学校	今川佳祐	秋田
	雲からでてきた太陽	桧木内小学校	浅利颯太	大曲仙北
	命の木	高瀬小学校	真坂凜	湯沢雄勝
小6	天敵との決戦	五城目町立五城目小学校	近江良太	男鹿潟上南秋
	不思議なサンゴと海の生き物たち	金浦小学校	今野莉心	本荘由利
	キツネ	協和小学校	岡田春姫	大曲仙北
中1	木の上の大王国	三関小学校	奥山キセキ	湯沢雄勝
	七色の思い出	大湯小学校	永井史珠	鹿角
	空の妖怪街	成章小学校	野口希歩	大曲仙北
	ともだち	琴丘小学校	石川怜	能代山本
中2	部活の思い出	日新小学校	佐藤陽太	秋田
	お世話になった楽器庫	鶴舞小学校	渡邊優希奈	本荘由利
	いつも野球をしたグラウンド	増田中学校	佐藤清	横手
中3	小さな通り道	能代第一中学校	近藤永彩	能代山本
	美しい校舎	十和田中学校	田子響聖	鹿角
	風花雪月	花輪中学校	阿部範仁 他	鹿角
	黄金包み	森吉中学校	奥山優太	大曲仙北
中3	校舎裏の松	山本中学校	山王丸陽愛	能代山本
	潟上	潟上市立羽城中学校	二田美海愛	男鹿潟上南秋
	ラストスパート	本荘北中学校	大場有真	本荘由利
	未知の音	横手南中学校	菊地永菜	横手
中3	2つの自分	鷹巣中学校	米山奈那	大曲仙北
	This is me.	潟上市立天王南中学校	舘岡芳乃香	男鹿潟上南秋
	無限の宇宙と有限の自分	御野場中学校	豊島涼音	秋田
	自分	本荘東中学校	野辺さくら	本荘由利
	春の水底	大曲中学校	寺邑尚祐	大曲仙北
	15歳の存在証明～前進	平和中学校	畦田千尋	大曲仙北
中3	15歳の自画像「スキキライ」	増田中学校	佐藤愛緒	横手
	発見	湯沢南中学校	佐藤蒼之介	湯沢雄勝
	夜の野原	羽後中学校	瀬川康太	湯沢雄勝

# 話題になった作品

小学生



十和田小学校  
はつごうのせんすいかん  
わだあいのすけ



つかまえたいな  
扇田小学校  
はたけ山はな



ゆめのふねでぼうけん  
八郎潟町立八郎潟小学校  
渡部ひまり



バスにのってかえるのいけへぼうけんだ  
金足西小学校  
三浦由奈



スイカごうでわくわくドライブ  
西仙北小学校  
すがわら みづき



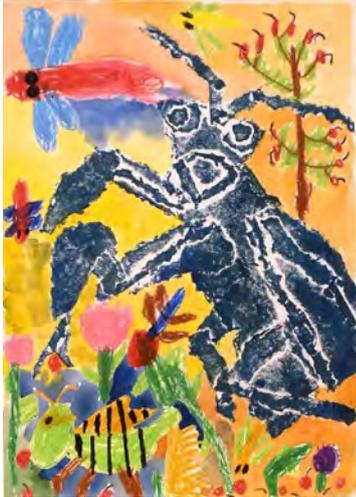
大きな魚とたんけんしたよ  
第四小学校  
伊藤 れい



みんななかよし  
石沢小学校 中村 絢



あわあわぞうさんと大ぼうけん  
十文字第一小学校 小原 夕



ぼくとめとぼう!  
三梨小学校 佐藤 颯汰



だれが魚をつかまえられるかな  
十和田小学校 成田 和香



とべ、てんとう虫、ピクニックヘゴー!!  
潟上市立天王小学校 佐藤 弥来



ねこワンダーランド  
雄物川小学校 佐々木 花苗



みんなを元気にする木山  
山瀬小学校 佐藤 海遙



歯磨きをしている友達  
湖北小学校 三浦 蓮来



空中にうかぶ動物の山

土崎南小学校  
今川佳祐



雲からでてきた太陽

桜木内小学校 浅利颯太



命の木

高瀬小学校 真坂凜



天敵との決戦

五城目町立五城目小学校  
近江良太



不思議なサンゴと海の生き物たち

金浦小学校  
今野莉心



キツネ

協和小学校 岡田春姫



木の上の王国

三関小学校 奥山キセキ



七色の思い出

大湯小学校 永井史珠



空の妖怪街

成章小学校 野口希歩



ともだち

琴丘小学校 石川怜



部活の思い出

日新小学校 佐藤陽太



お世話になった楽器庫

鶴舞小学校 渡邊優希奈



いつも野球をしたグラウンド

増田小学校 佐藤清



小さな通り道

能代第一中学校 近藤永彩

中学生



美しい校舎

十和田中学校 田子響聖



風花雪月

花輪中学校 阿部範仁 他



黄金包み

森吉中学校 奥山優太



校舎裏の松

山本中学校 山王丸陽愛



湯上

湯上市立羽城中学校

二田美海愛



ラストスパート

本荘北中学校 大場有真



未知の音

横手南中学校 菊地永菜



2つの自分

鷹巣中学校

米山奈那



This is me.

湯上市立天王南中学校 舘岡芳乃香

自分

本荘東中学校

野辺まへら



無限の宇宙と有限の自分

御野場中学校

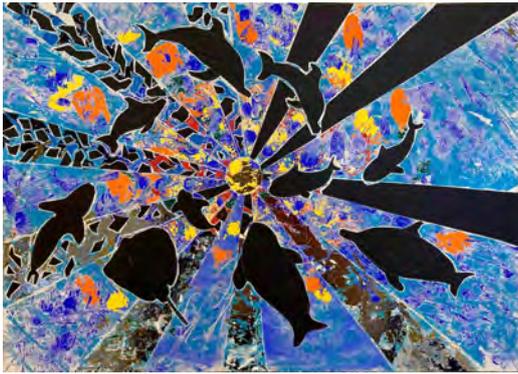
豊島涼音



15歳の存在証明～前進

平和中学校

畦田千尋



春の水底

大曲中学校

寺邑尚祐



発見

湯沢南中学校

佐藤蒼之介



15歳の自画像「スキキライ」

増田中学校

佐藤愛緒



夜の野原

羽後中学校

瀬川康太